
魔法少女リリカルなのは 転生者の伝説

観月 衛

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは 転生者の伝説

【Nコード】

N1702BA

【作者名】

観月 衛

【あらすじ】

ゼルダの伝説の熱烈なファンで主人公のリンクに憧れ剣の修行を行っていた主人公がリリカルなのはの世界に転生する話です。

ブローグ

俺は今、見渡す限り白色が続く謎の場所にいる。

「ここはどこだ？」

確かさっきまで家で剣の修行を終えてゼルダの伝説スカイウオード
ソードをしていたはずなんだが。

おまけに女の人が土下座しているし。

とりあえず俺は女の人に話しかけることにした、が

「あの〜」

「ひいつー!」

「?」

「ごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさい
い……」

女の人はずーっと俺に土下座状態のまま謝り続けている。

どうしようか。

とりあえず落ち着かせてみよう。

「あの〜」「ごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさい
めんなさい……」

だめだこいつ錯乱してやがる……こうなったら

「いいかげんにしろ、このアマー……ッ……!!」

ドカンッ!!

「痛い!？」

とりあえず殴った。

「落ち着いたか？」

「はい取り乱してすいません。」

「でどこ何所？」

「ここは死後の世界です。」

「じゃあ死んだのか俺？」

「はい……驚かないですね。」

「まあ死因が気になるけど生きようが死んでいようがどうでもよかったし死ぬ前まで自分の存在意義を考えてたしな……で俺この後どうなるの？」

「今回の件は私のせいなので転生させます。」

「……だが断」 「拒否権はありません。」 「なんだと!？」

「転生の際に特典3つと転生先を選べます。どうしますか？」

「えゝ因みに転生先って何所？」

「魔法少女リリカルなのはの世界です。」

「………あゝ思い出した確か友人の伝説の青年Aが俺に進めてたな！軽く再放送見たけど。」

「誰ですか?!その伝説の青年Aって!？」

「ん?えつと簡単に言うとな冬のコミックマーケット二日目に現れるランニングシャツと短パンで冬コミに参加してる友人。一部ではもう噂になってるよ。」

注意リアルで存在してて作者の友人です。

「……まあいいでしょうそれより早く特典決めてください。」

「さて、ほかに転生者はいるのか？」

「はい、いますよ。」

「そんなじゃあ……よし決めた一つ目ゼルダの伝説シリーズで出てくる武器、能力、アイテム等を全部くれ。もちろん敵として出てきた奴の能力やギラヒムも俺がマスターだと認識させた上でくれよ。後消費アイテムは生産できるようにして冒険ポーチには、物が無制限で入るようにしてくれ。」

「わかりました。」

「二つ目俺の容姿をゼルダの伝説のリンクの黒髪、黒瞳のバージョンにしてくれ。」

「はいはい」

「そして最後だが・・・マスターソードとギラヒムになのはの世界で出てくる能力や魔法関連の無効化能力と転生者の特典の無効化能力を付属してくれ。」

「わかりました。ではそれで決定します。でもよかつたんですか？デバイスとか無いと空も飛ばないし転送もできませんよ？」

「????何言つてんの転送なら時のオカリナ使えばいいし空ならガノンドルフの力使えばいいじゃんか？」

「・・・そうでしたねでは、転生させますね。あつ時期は無印で10歳からスタートですから。家とかも用意しといて冒険ポーチに場所の書いた紙入れときますから。」

「ああ色々どうも。」

「では、転生させます第2の人生を楽しんでください。」

1話

どうもついさっき転生させられた自称リンク（偽）です。

現在の状況を把握すると現在夜で公園らしき場所で倒れていたようです。

なぜわかったのかと言うと地面で寝ていたようで背中がメツチャ痛いんです。

まあそんなことはさておき現在俺が持っている物を確認しようと思います。

服装ですか・・・シャドウリンクの服ですね・・・まあ黒髪に頼んだんでそれは良しとします。

それでは注文したものがあるかチェックします。

腰にある冒険ポーチの中身を見てみます。

・・・なんか底が見えないけど・・・リアル四次元ポケットか！まあ取りあえず手をつ込んで中身を確認しよう。

まずは・・・お！なんか剣の柄らしき物の感触が・・・おゝこれは・・・コキリの剣でした。

なんか実際見るとナイフみたいだな・・・気を取り直して他のアイテムを見よう・・・今度はパチンコが出てきた・・・なんか時オカの子供時代の装備品しか出てこないぞ！どうなってるんだ！その後もバクダン、ボムチュウ、空き瓶、ブーメラン等しか出てこなく諦めかけたところに時のオカリナが出てきた。しかもなんかメモが張ってあった。

「なになに・・・時の歌は時間戻しができたらもう神の領域なのであなたの年齢やゼルダシリーズの武器やアイテムの変更に改変しました。使用方法は作品を想像しながら時の歌を吹けば良いです。ワープの歌はあなたが場所を想像すればワープできます。マスターソードに関しては無制限で出せますが15歳以上にならないと使用できないので気おつけてください・・・なるほどじゃあ早速。」

早速出したアイテムをしまい時の歌を吹いた。シリーズは・・・マスター登録もしたいからスカイウォードソードを想像しながら吹いた。

♪~~~~♪
♪~~~~♪
♪~~~~♪

吹き終わった。ん~~~~やっぱこの音色は神だな~~~~そんなことを思っているとゼルダ定番の青白い光が俺を包み込んだ。そして光が消えた後俺は大人リンクになっていた。

「お~~~~では早速持ち物確認を・・・」

最初に冒険ポーチから出てきたのは、ビートルでした。その後も入手した順にアイテムが出てきそしてついにあの剣が出てきました。

「・・・マスターソード・・・」

ゲームでもきれいな剣だと思っていたが実際に見ると本当に美しい剣だった。

神々しいオーラを放っている白銀刃は本当に俺を魅了させた。そしてマスターソードが光だし光が剣から飛び出しその光は一人の少女になった。

スカイウォードソードをプレイした人なら誰でもわかるだろう。

ファイだ。

だがここにいるファイは魔族長ギラヒムのように人間と見分けもつかない状態の普通の少女だった。

「マスター登録完了しました。おはようございます。マイマスターリンク。」

あっやっぱりそうなるんだ。まあ前世の名前なんてもういららないしな。

「正確には夜だからこんばんわだけどな。えっとファイでいいのか？」

「イエスマスター。私は神よりあなたに従うように使わされました。これからよろしく願います。」

「ああよろしく。ところでギラヒムは？」

「僕ならここにいますよ。」

声ができる方向に向くと魔族長ギラヒムが木に寄りかかっていた。

「君が新しいマスターか、あのいけ好かない小僧に似ているのが好かないがこれからよろしく頼むよマスター。」

あーやっぱり・・・まあ敵だったもんな・・・

「ギラヒムは魔剣的な物のままなのか？」

「ああ僕は元々魔王様の剣だからね。それにそのファイと違って闇関連の物の吸収能力も僕には備わっているよ。あの女神が付属した効果だけだね。」

へーそんな効果もつけてくれたんだあの女神的なもの。なんか最初に殴ったの謝つとけばよかったかな？

そんなことを考えていると二人が何かに気づき反応のあった方向を向いた。

「マスター 魔力反応と結界の発動を感知しました。この世界の原作開始の結界である確率87%です。」

「転生者の反応もあるようだよマスター どうするんだい。」

ああもう原作始まるんだ。

でも今はあんま知らない此処の地理とか見ておきたいし拠点の家も調べたいから・・・

「ファイ転生者の反応にダウジングができるようにしておいてくれ。今回は介入しない。」

「イエスマスター。」

「いいのかいマスター？ 邪魔な奴なら殺したいけど。」

「いやいいそれに俺が戦いたいと思っているのは再放送で見たあのよくわからない化け物だからね。」

「それについてだけどそれ僕のおもちゃにしていいいかい？」

「ちょっと戦ってみてからなら好きにしていよ。あれなんかすぐ再生するらしいし。」

「感謝するよマスター。」

「それじゃあ行くか。」

「イエスマスター。」

そう言うとファイはマスターソードに戻り、ギラヒムは俺と共に歩き始めた。早速拠点となる家に行ってみるか。

2話

冒険ポーチに入っていたマップを見てまずは今後の拠点となる家に向かっていた自称リンクこと俺とギラヒムだが途中できれいな青い宝石を拾った。

「・・・何これ？」

なんか妙な力を感じるんだが

「これはジュエルシードだよマスター」

隣にいたギラヒムが答えマスターソード内のファイが出てきた

『マスタージュエルシードとは強力な魔力を秘めた結晶体です。願いをかなえる石と言われていますが実際はそこまでの力は無くある程度ゆがんだ形で願いをかなえるものです。』

「後は次元震を起こすものとして使われてるよ。」

「ふーん・・・二人とも詳しいけど何んで？」

『私たちはマスターの物になる前にある程度の情報を女神様からもらっています。』

「あゝなるほど。」

つまりこれはゼルダで言うところの陰りの鏡の破片や陰りの結晶石と同じようなものか・・・んこんなものが地球にあるってことは・・・

「もしかしてこれ原作に関係するもの？」

『イエスマスター、これは今行われている。のちにPT事件と呼ばれるものに深くかわってくるものです。』

マジかよ俺はただある程度情報集めたら再放送であつたようなモンスターだらけの世界行つて戦いとか思つてただけなのに捨てよっかな？・・・ん待てよ

「これ集めてる原作の奴らつて強いのか？顔覚えてないけど。」

「さーねこの時期だったら弱いんじゃないかな？転生者はわからないけど。」

「じゃあその転生者の实力を見るためにそれを利用するか。」

「ん？・・・あゝそうゆうことなかなか面白いじゃないかい。」

どうやらギラヒムには俺の考えていることが分かったようだ。

「じゃあギラヒムこいつ（ジュエルシード）を明日発動する魔物に変えて飛ばしてくれ。」

「お安い御用だよ。」

そう言うところではギラヒムは指を鳴らし俺の手に在ったジュエルシードはどこかに消えた。

「ファイ、ジュエルシードのダウジングはできるか？」

『イエスマスター、ジュエルシードをダウジングの対象として登録します。』

さて魔物化したジュエルシードどう対処するか見せてもらうつよ転生者
それが終わったらジュエルシード集めでもするか・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1702ba/>

魔法少女リリカルなのは 転生者の伝説

2012年1月7日01時51分発行